



# デジタルシティズンシップ

「デジタルシティズンシップ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。おそらく、1ねんせいの子どもたちにその言葉を伝えてもほとんどの子が「？」となるはずです。

たぶん、大人でも正確に意味を説明できる人は少ないでしょう。この言葉は、次の意味を指すものです。

「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」

これを読んで、「なるほどわかった！」となる小学生も恐らく皆無です。むしろ、より分かりにくくなったとも見ることができます。ですから、ちょっとシンプルにするために分解してみます。例えば、ルールとマナーとモラルという言葉があります。道徳ではこの3つを主に学ぶわけですが、それぞれの違いはあまり意識されることがありません。

そこで、授業では次のように説明することがあります。

電車に乗る時のルールはなんですか？

「席を譲る。」

「静かに乗る。」

「乗る時は並ぶ。」

たくさん意見は出てきますが、これはいずれもルールではありません。根気強く聞いていると、数分後には正解が出てきます。

「切符を買う！」

その通り。

電車には、「切符を買って乗車する」というルールがあります。

このルールを破れば、つかまります。

警察に。

ルールとは、決まりであり、約束です。

法律や規則とも言い換えることができます。

集団、または社会で生活する上で守らなければいけないことです。

違反すればペナルティ（罰）を負うほどの強制力があります。

では、先ほど出ていた

「席を譲る。」

「静かに乗る。」

「乗る時は並ぶ。」

などは、何なのでしょう。

これが、「マナー」です。

マナーとは、心がけです。

守るとみんなが気持ちよく過ごせるものです。

例えば、お年寄りの方や体の不自由な方に席を譲らなくても、警察に逮捕されることはありません。

けれど、誰かが「どうぞ」と言って席を譲る姿は何度見ても美しいです。

そんな人が数人でも車両にいてくれるだけで、みんなが気持ちよく電車に乗ることが出来ます。

これがマナーです。

もちろん、ルールほど強制力はありません。

でも、だからこそこうしたマナーを守るかどうかには、その人の「心」が現れるのだと思います。

自分の都合を優先するか。

誰かの喜びを優先するか。

マナーをどの程度守れるかどうかというのは、心の成熟度を表す一つの指標ともいえるでしょう。

モラルとは、意思決定です。

ルールやマナーを守るかどうかを決めることです。

道徳の授業でよく聞く「モラルジレンマ型授業」とは、この意思決定の際に生まれる「葛藤」を議論し討論していく授業です。

ルールは知っている。

マナーも知っている。

でも、知っているだけでできるならば、犯罪や違反は起きないのです。  
そこには、どのように意思決定をするかという「モラル」が強く関係しているからです。

大人になれば、たいていの人はルールやマナーを知っています。

知っていて、守らない人がいるのです。

こういうケースで使う言葉が「モラルが無い」「モラルが低い」です。

先ほどの

「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」

というデジタルシティズンシップの意味に照らすならば、

「ルールやマナーを知ること」＋「モラルをもって行動すること」

と分解して意識することができそうです。

さて、今週は「情報」の授業を通して丹羽先生からデジタルシティズンシップについての授業がなされました。

その内容に関して、お家の方からも「ひとこと」をいただいたと聞き、学年団でそのプリントを見せてもらっているところです。

とても素敵な内容が書かれていましたので、抜粋でいくつか紹介させていただきます。

IPADは、とてもべんりなどうぐです。

どうぐにはかならずもくてきがあります。

もくてきを、わすれないように、かしこくつかいましょう。

どうぐに、つかわれたい。

どうぐを、つかいこなす、かしこいひとになりましょう！

〇〇なら、できるよ！♡

PCやIPad たのしいよね！！

でもせいかいには、もっともっとすてきなものがいっぱいあるんだよ(^\_^)

PCやIPadはじかんやルールをまもってつかってね♡

ひろいせかいをみてワクワクをたくさんみつけようね！！

パソコン（IPad）は、いろいろなことができます。

しゃしんやどうがなどをとったり、ともだちとおくりあうこともできま

す。

しかし、つかいかたをまちがえるとほかのひとをきずつけてしまうことがあるのできをつけましょう！

YouTube やげーむじたいはわるいものではありません。

つかいかたしだいでよいものにもわるいものにもなります。

じぶんのじかんや“め”のことをかんがえながら、よいものになるようにつかってください。

IPad は、とてもべんりです。そのべんりさをゲームにつかうと、楽しすぎて、大切なべんきょうにしゅうちゅうできなくなってしまいます。SOLAN 小学校に「かしこく、かっこよくなるため」にかよっていることをわすれずに、大切なべんきょうにべんりな IPad をりようできるようにしてほしいです。

紙媒体には紙の良さ、IPad には IPad の良さがあります。

それぞれ、使い分け、色々なやり方で学びましょう。

ルールを守って、かしこく使いましょう。

おともだちと、かしたりかりたりしない。

ひつようなときに、ひつようなじかんだけつかう。

おともだちやせんせいに、めいわくをかけないようにする。

やくそくをまもれたらかっこいいなあ。

書くご家庭から寄せられた「ひとこと」には、お子さんへのたくさんの示唆や愛が含まれているように感じました。

デジタルシティズンシップの育成に向け、ご家庭でどんなお話をされているかなど、また気軽に教えて頂けると嬉しいです。（渡辺道治）

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)